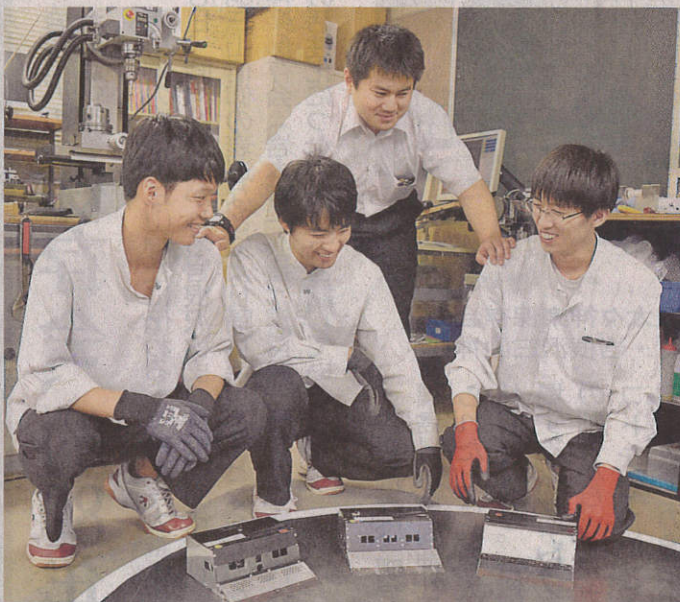


創学館高 2部門V

ロボット相撲 北海道・東北大会

天童 全日本ロボット相撲大会2019北海道・東北大会の高校の部で、創学館高(天童市)チームが自立型、ラジコン型の両部門で優勝を果たした。北海道が統合される前の東北大会から数えて、自立型は7連覇、ラジコン型も2年ぶりに王座を奪回。自立型3位に入ったマシンも含め3台で全国に挑む。



全国大会に向けロボット力士を調整する部員と大坂友人教諭(後列) 〓天童市・創学館高

大会は1日に北海道旭川市で開かれ、コンピュータプログラム内蔵の自立型、リモート操縦のラジコン型の2部門に14校から37台が出場。本県からは創学館の3台が参戦した。今年から北海道と東北予選が統合された。

直径154mmの土俵で、ロボット力士がぶつかり合う。強力な磁石で鉄板に張り付くマシンを、前面のブレードでいかに剥がすかがポイントになる。自立型優勝の3年丹羽芽生さん(18)は自身2連覇で「去年より磁石を大きくして吸着力を高め、相手にもぐらせない改良を加えた」ことが奏功した。3位の3年木村智

自立とラジコン 11月の全国へ気合十分

哉さん(17)はタイヤを修理し、センサー部分を加工し直して全国に臨む。

ラジコン型優勝の3年川村健人さん(18)は「去年より落ち着いて大会に入っていた」といい、さらにブレード先端の改良を加える。また、出場制限のない全日本の部に参加した顧問の大坂友人教諭(34)も優勝。「たまたまです」と照れ笑いする。

東北一の名門とはいえ、全国のハードルは高く、去年は入賞なしに終わった。「マシンの整備ミスが敗因につながった」(川村さん)と分析し、調整に余念がない。共に2年の井場祐人さん(17)と横山崇徳さん(17)も補助員となり、CSC(コンピュータ・システム・クラブ)全部員5人で大舞台に乗り込む。

富士ソフト(横浜市)と全国工業高校長協会が主催。全国大会は11月23日、福島県郡山市のビッグパレットふくしまで開かれる。(阿部研一)